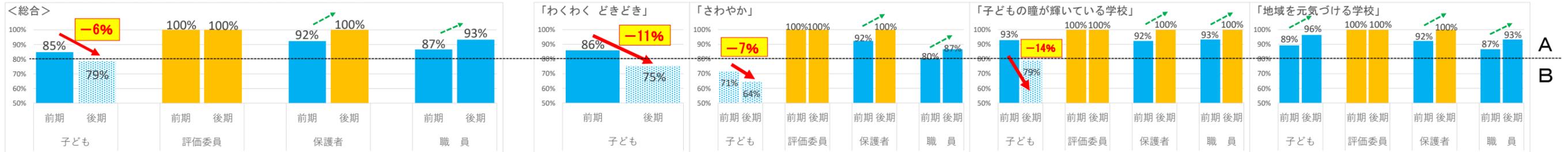


【中学校・学校教育目標】新しい時代をたくましく生きる人間として知・徳・体の調和のとれた人間形成の確立をめざす 【小学校・学校教育目標】「やさしい心もちかしく学ぶ心身ともにたくましい北三瓶っ子の育成」

【めざす学校像】「わくわく どきどき さわやかに」 子どもの瞳が輝いている学校 地域を元気づける学校

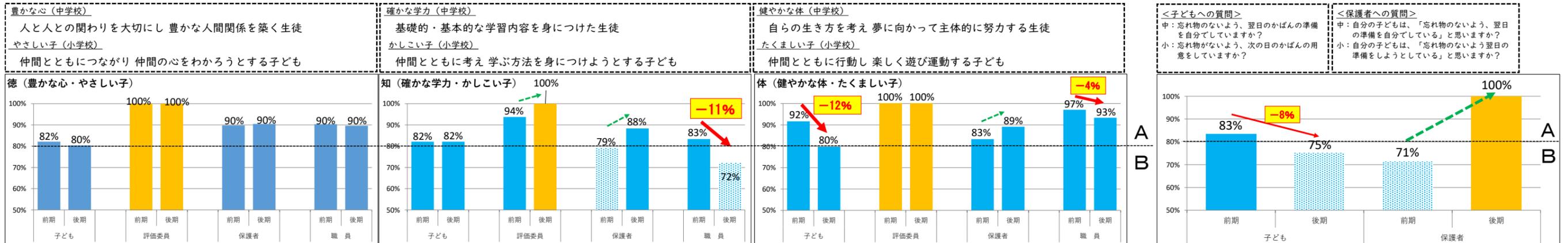
「めざす学校像」評価(肯定的評価の割合)



伸び悩んだ項目の要因等
 「めざす学校像」に対する評価は、前期と比べると、大人は3者ともプラス方向に伸びているが、子どもの評価は「地域を元気づける学校」以外の項目が下がりB判定となった。
 ※子どもの肯定的評価が下がりB判定になった要因については、『友だち関係における悩み』『授業・学習に対する不安・不満』『抽象的な言葉をそのまま評価しようとしたこと』『年間を通して行事が多いためゆっくりする時間がない』等の理由が考えられる。

対策
 ★【思いやりのある学級集団づくりの推進】【“生きる力”を育むさらなる授業改善】を次年度学校経営の核にします。行事の内容見直し等も行います。
 ★今年度は校長がトップダウンで学校評価を行ったが、次年度は関係者・職員とともに創り上げた内容となるよう【学校評価の改善】【行事の内容見直し】を行います。

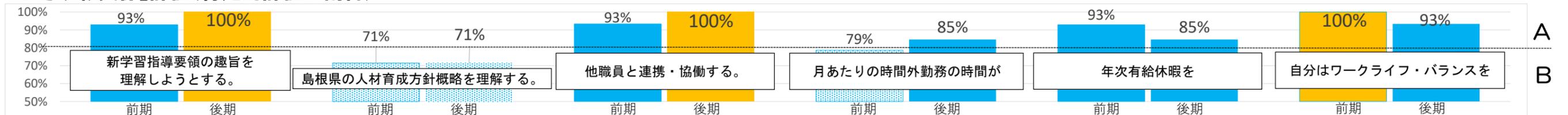
「めざす子ども像」評価(肯定的評価の割合)



伸び悩んだ項目の要因等
 ※「徳」の評価は、前期と変わっていない。以前として子どもの評価が80%に留まっているのは、前期同様、中学生の中に「小学生のよいモデルになること」という意識が薄かったという反省があるためである。小・中の連携をさらに進め、「9年間を通した」という意識を職員も子どもたちにも持たせる必要がある。
 ※「知」の保護者の評価は上がったが、職員の評価が下がってB判定となった。その要因は、特に中学校職員の「家庭学習の充実」推進が思うようにできなかったという反省、小学校においては「授業改善の推進」が出来なかったことが要因となっている。山村留學生の実態も考慮し、家庭学習の在り方・やり方を再検討すること、授業改善について研修する機会を確保する必要がある。
 ※「体」の子どもの評価は大きく下がっている。アンケート時にスキー教室が延期になっていたことも影響しているか。冬季になり、外での活動が減ったことも大きな要因であると考えられる。
 ※「忘れ物をしないように…」の項目では、前期の結果とは対照的な結果となり、子どもはA(83%)からB(75%)判定、保護者はB(71%)からA(100%)判定になった。子どもでは、特に中学生、山村留學生の課題が大きいためB判定となっている。

対策
 ★徳「豊かな心・やさしい子」…【思いやりのある学級集団づくりの推進】を核にする。
 ★知「確かな学力・かしこい子」…【職員研修の充実、自己研鑽等】が必要である。そのためにも【働き方改革をさらに推進】していく。
 ★体「健やかな体・たくましい子」…【後期における運動量の確保について検討】する。
 ★忘れ物や宿題等に関すること…【山村留学センター指導員とのさらなる連携】をこれまで以上に密に行う。

「めざす職員像」評価(肯定的評価の割合)



伸び悩んだ項目の要因等
 ※項目『島根県の人材育成方針概略を理解する。』の評価が前期に続いてB判定となっている。校長の、職員に対する周知が十分でなかったことが要因である。

対策
 ★【『島根県の人材育成方針』の周知徹底を図る】とともに、引き続き【働き方改革の推進】を行う。